

工事実施基本計画について

1. 紀の川における治水計画の経緯
2. 工事実施基本計画と河川整備基本方針・河川整備計画の関係
3. 紀の川水系工事実施基本計画
4. 工事実施基本計画の説明

1. 紀の川における治水計画の経緯

計画名 (策定年)	計画対象 主要洪水	(基本高水のピーク流量) 計画高水流量 (m ³ /s)	主な工事内容
紀の川改修計画 (大正12年)	大正6年の 洪水	本川下流：5,600	河口～岩出間の築堤・掘削浚渫
紀の川改修工事 区間延長計画 (昭和25～34 年)		本川上流：4,000 貴志川：2,900	岩出～橋本間および貴志川の築堤、掘削。
紀の川 修正総体計画 (昭和35年)	昭和28年及 び 34年の 洪水	貴志川：2,900 本川上流：4,500 (7,100) 本川下流：6,100 (8,400)	大滝ダム 岩出～橋本間の堤防の拡築、掘削の継続 河口～岩出間の護岸、堤防の嵩上げ 貴志川の堤防の嵩上げ、引堤 五條地区の改修
紀の川水系工事 実施基本計画 (昭和40年4月)	同上	同上	新河川法に基づき紀の川水系工事の実施基本計画として上記をとりまとめた。
紀の川水系工事 実施基本計画 (改定) (昭和49年3月)	昭和40年・ 47年の洪水	本川下流：(16,000)12,000 橋本：(9,400) 6,500 貴志川：(4,700) 3,100	大滝ダム等上流ダム群 河口～五條間の堤防の拡築、掘削、 護岸、井堰、橋の改築、貴志川の護岸等
紀の川水系工事 実施基本計画 (部分改定) (平成6年6月)	同上	同上	同上 (上記の他に上流ダム群の1つに紀伊丹生 川ダム、また、紀の川大堰が明記され た。)